

武本 京子

アクティブ・ラーニングを実践するための「イメージ奏法」を使った ICT 活用授業

1. 「イメージ奏法」の音楽分析の方法とねらい

より独自の音楽表現を追求するために、「イメージ奏法」による音楽分析の方法やねらいを示し、学習課題への興味関心を高める「ピアノ演奏法」の授業を行なっている。受講生は事前学習において携帯端末などにより自分のイメージを映像化した「イメージ楽譜」を作成し、自己表現の考え方を発表討論する授業を展開している。その結果、楽譜から演奏法を指導するという一方向的な授業ではなく、イメージ楽譜を討論する中で教員と学生、学生同士がイメージを共有し、協働的なアクティブ・ラーニングとして成果を上げている。本発表では、教師と受講生全員がイメージを共有するための「ICT活用」の効果を報告する。

2. 「イメージ奏法」における ICT 活用の方法と成果

「イメージ奏法」¹⁾とは、武本京子が考案し、楽曲を分析し、それを「言葉、色、絵、文字、表現曲線」等で表現し把握することにより、楽譜から導き出された「イメージ」を奏法に結び付ける「独創的なピアノ奏法&教育法のメソッド」である。具体的には、

- ①作品の背景を調べて楽曲分析をする、
- ②イメージ語を考えその言葉から物語を作成し、全体の構成を考える、
- ③イメージを実現する具体的奏法を誘導する「表現曲線」を記入した後、
- ④曲のイメージに相応しい色を楽譜に着色し、「演奏設計図」を作成して練習を重ね、演奏を完成させる。

今回の発表では、進化した演奏設計図である「イメージ楽譜」作成がパソコンから携帯端末(スマートホン)へと移り、スマートホンが生活の一部である学生が、自宅等でも自己学習で綿密に時間をかけて作成することに成功していることを発表する。

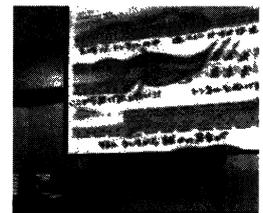
机の前にいなくても自然や雑踏の中で自分の想像の世界に身を置き、音楽をイメージすることが可能となり自分の自己表現の意欲が高まり、発表を通してそれを学生同士で共有したり討論したりする。音で表現してみたい欲求が増しその音色を奏するための技術習得の練習量が増える成果を得ている。

①「イメージ奏法」を取り入れた授業では、学生が音楽からイメージする世界を言葉・物語・色・表現曲線などで分析した「イメージ楽譜」(演奏表現設計図)をモニター等で写しながら学生相互でディスカッションやディベートといった双方向の活動を容易にし、対話の中で自分の表現したいイメージを明確にする。

② 討論を通して楽譜に自分がイメージした色や言葉や絵を見直し、イメージ楽譜を修正することで、より自分らしい演奏を心がけることにつながる。

③ イメージ楽譜に基づく演奏においては、作成した演奏表現設計図から奏法を工夫し、イメージに合った演奏法を確立して、練習に生かすことができる。

音楽を分析し、表現を探り、イメージ楽譜を学生同士で共有する、音楽表現の可能性とおもしろさを目指す試みは、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実践として授業への取り組みを高めるなどの成果を上げている。



イメージ楽譜を示しながら演奏する受講生

イメージ楽譜の作成や発表、討論において ICT(スマートホンなど)を活用することは、学生にとって身近なツールであるからこそ、いつでも、どこでも演奏する楽曲に集中することができる。イメージ楽譜の完成までにはかなりの時間がかかるが、学生にとって楽しみながら取り組み、発表や討論も活性化できる。しかし、それを演奏するための技法の獲得には、教員からの指導が必要であるが、イメージ楽譜と関連づけることで、学生が納得できる演奏に繋がることが容易になる。

【注】

中田(武本)京子(1995)『楽曲イメージ奏法』ドレミ楽譜
武本京子(2013)『ピアノを学ぶ人へ贈る 武本京子の「イメージ奏法」解説書』音楽之友社
——、(2013)『ピアノを学ぶ人へ贈る 武本京子の「イメージ奏法」によるワークブック『ブルグミュラー 25の練習曲』音楽之友社

発表者:武本 京子(ピアノ/愛知教育大学)

司会者:甲斐真里子(ピアノ指導研究/上野学園大学)